

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 23 日現在

機関番号：62618

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23320107

研究課題名(和文) 実践的な読解教育実現のための日本語学習者の読解困難点・読解技術の実証的研究

研究課題名(英文) A Study of Reading Comprehension Difficulties and Skills of SL Japanese Learners

## 研究代表者

野田 尚史(Noda, Hisashi)

大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・日本語教育研究・情報センター・教授

研究者番号：20144545

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 7,100,000円

研究成果の概要(和文)：初級レベルから上級レベルまでの日本語学習者を対象に、日本語を読んで理解した内容やわからないことを母語で話してもらい調査を行った。その結果、たとえば次のようなことが明らかになった。

(1) 中国語を母語とする日本語学習者は漢字に頼りすぎる傾向があり、ひらがなで書かれた部分を見落として正しく意味が理解できないことがある。

(2) 上級学習者でも修飾構造や並列構造を含む複雑な文の構造を理解するのは難しく、自分の既有知識に合うように文の意味を理解することがある。

研究成果の概要(英文)：In this study Japanese learners from beginner to advanced levels were asked to read material in Japanese and describe what they understood and did not understand in their native language. We found the following:

1) Native speakers of Chinese tend to rely on kanji (Chinese characters) and miss nuances conveyed in the hiragana (phonetic alphabet) part of sentences, leading to misinterpretations in meaning.

2) Even advanced learners have difficulty in understanding complex sentences, although they find sentences related to areas they are familiar with easier to comprehend.

研究分野：日本語教育

キーワード：日本語学習者 読解

### 1. 研究開始当初の背景

「聞く」「話す」「読む」「書く」という4技能の日本語教育の中では、「読む」教育、つまり読解教育がもっとも研究の蓄積が少なく、教材のバリエーションも少ないと言える。

読解教育の主流は、学習者の日本語能力に合わせて語彙や文法を制限した文章を読ませるものである。具体的な読解技術を詳しく教え、練習させる教育はあまり行われていない。それは、語彙や文章構成などを除き、読解技術についての研究があまり行われてこなかったためである。

本研究は、実際に読む必要がある生の日本語を読むという実践的な読解教育を実現するために、うまく読めない学習者には何が難しく、うまく読める学習者はどんな技術を使っているのかという日本語学習者の読解過程を解明するものである。

従来の読解教育の主流は、主に既習の語彙や文型を使って書かれた読み物を、既習の語彙や文型の知識を使って読むものだった。実践的な読解教育というのは、実際に読む必要がある読み物を、未知語の意味の推測や文章の型についての知識などを使って読むものである。そのための具体的な技術を解明しなければならぬと考え、本研究の着想を得た。

### 2. 研究の目的

本研究で明らかにしたいのは、(1)と(2)の2点である。

- (1) 読解困難点：生の読み物をうまく読めない学習者は、何が難しいのか？
- (2) 読解技術：生の読み物をうまく読める学習者は、どんな技術を使っているのか？

本研究の特色と意義は、(3)から(5)の3点である。

- (3) 発話思考法の応用：学習者の読解過程を分析するために、Gerloff (1986) などの発話思考法 (Think-Aloud Protocol) を用いる。ただし、読解の途中で調査者が積極的に質問を行うなど、学習者の読解困難点や読解技術を見つけるさまざまな方法を試みる。
- (4) 語彙や文型以外の読解技術を重視：門倉 (2007) で示されているように、読解には文字だけではなく、レイアウトや写真、図表などの読み取りが重要である。さらに、未知語の意味の推測、定型的な文章の型についての知識、文章展開の予測などを重視する。
- (5) 母語による違いを重視：野田 (2009) で述べられているように、漢字の意味がわかる漢字系学習者は漢字が多い読み物ほど読みやすいなど、母語による違いがある。本研究では、漢字系学習者と非漢字系学習者に分けて調査・分析を行う。

### 3. 研究の方法

日本語学習者の読解困難点・読解技術を明らかにする調査を、基本的に発話思考法 (Think-Aloud Protocols) で行う。ただし、学習者の発話だけでは学習者の読解過程が詳しくわからないことが多いため、調査者が読解の途中で、正しく理解されているか、そう理解した根拠は何かといった質問を積極的に行う形で調査を行う。

上級日本語学習者に学術論文を読んでもらう調査を例にすると、具体的には次の(6)から(8)のような方法で調査を行う。

- (6) 日本語学習者一人ひとりに、自分の研究のために読む必要がある学術論文を選んでもらい、その論文を読んでもらう。
- (7) 普段どおりに辞書やパソコンを使いながら読んでもらい、読みながら考えたことや理解できないところなどを話してもらう。
- (8) 日本語学習者に内容理解を確認するための質問を行う。必要に応じて、専門分野についての既有知識の有無などの確認も行う。

調査は、学習者の日本語のレベルを問わず、基本的にその人の母語か母語に準じる言語で行う。

### 4. 研究成果

主に日本とヨーロッパに在住する日本語学習者を対象に、日本語を読みながら理解した内容やわからないことを母語で話してもらった調査を行った結果、たとえば(9)から(13)のようなことが明らかになった。

- (9) さまざまな言語を母語とする初級から上級の日本語学習者にグルメサイトのレストランのクチコミを読んでもらう調査を行ったところ、上級学習者でもクチコミによく出てくる「イマイチ」「お手頃」のような語彙や、「沢山」「頂く」のような表記がわからないことが多かった。
- (10) 中国語を母語とする初級日本語学習者にホテル検索サイトを読んでもらう調査を行ったところ、中国語系の初級学習者は漢字に頼りすぎる傾向があり、ひらがなで書かれた「ない」などの活用語尾、「のみ」などの助詞を見落として正しく意味が理解できないことが多かった。
- (11) さまざまな言語を母語とする中級日本語学習者に新聞記事に似せて作った実験用の文章を読んでもらう調査を行ったところ、「～には」「～では」などを含め「は」があれば、その前の名詞を主語だと判断する傾向や、従属節の主語を表すだけの「～が」を文全体の主語だと判断する傾向があった。それに対して、上級学習者は正しく主語を特定できる者が多かった。

(12) ヨーロッパの言語を母語とする上級日本語学習者にグルメサイトのレストランのクチコミを読んでもう調査を行ったところ、顔文字や記号の使用に対して、日本語母語話者は「強くそう思っていることがわかる」などと意味のある情報としてとらえる傾向があるのに対して、ヨーロッパの上級日本語学習者は「顔文字や記号を使っているクチコミは信用できない」「顔文字はかわいい」などと情緒的にとらえる傾向があった。

(13) 中国語を母語とする上級日本語学習者に自分の専門分野の学术论文を読んでもらう調査を行ったところ、①から③のような問題点が明らかになった。

- ① 中国語にない漢語や、漢字で書かれた和語、外来語など、自分の知らない語句の意味を独自の方法で推測し、不適切な理解をすることがある。
- ② 修飾構造や並列構造など、学术论文に出てくる複雑な文の構造がとらえられず、不適切な理解をすることがある。
- ③ 自分の既有知識と一致しない内容が書かれていても、自分の既有知識に一致する内容が書かれていると思いつみ、不適切な理解をすることがある。

このような研究成果により、学習者が日本語の文章を適切に理解するためには従来の日本語教育で扱われてきた語彙や文法だけでは十分でなく、それぞれの文章で使われる独特の語彙の知識や、複雑な文の構造をとらえる「読むための文法」、さまざまな推測能力などが必要なことが明らかになった。

研究成果は、国内外の学会で研究発表を行い、国内外の学会誌等に論文を発表した。その結果、国内外でこのような読解研究の重要性が理解されるようになってきた。日本語学習者の読解研究は会話研究や作文研究に比べて遅れており、読解教育で具体的な読解技術を教えられるようにするためにも必要な研究であり、意義がある。

今後は、2015年度から4年間の科研費基盤研究(A)「読解コーパスの構築による日本語学習者の読解過程の実証的研究」により、大量の読解過程のデータを収集し、日本語レベルによる違いや学習者の母語による違いなどを含め、学習者の読解過程を多角的に分析する。それにより学習者の読解過程を詳しく実証的に明らかにし、読解教材の開発にも貢献できるようにする。

〈引用文献〉

- ① 門倉正美 (2007) 「リテラシーとしての〈視読解〉—「図解」を手始めとして—」『リテラシーズ』3, pp. 3-18, くろしお出版。

② 野田尚史 (2009) 「漢字系学習者のための日本語の読解教育・作文教育の革新」, 張佩霞・王詩榮(主編)『多元化視角下的日語教学与研究 第4届日語教学研究国际検討会文集』pp. 22-39, 華東理工大学出版社(中国, 上海)。

③ Gerloff, P. (1986) Identifying the unit of analysis in translation: some use of think-aloud protocol data. In C. Fearch and G. Kasper (eds.) *Introspection in second language research*. pp. 135-158. Clevedon and Philadelphia: Multilingual Matters.

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 12 件)

① 野田尚史・穴井宰子・桑原陽子・白石実・中島晶子・村田裕美子「ヨーロッパの上級日本語学習者によるウェブサイトのクチコミの解釈—文化の相違による解釈の違い—」『ヨーロッパ日本語教育』19, pp. 245-250, ヨーロッパ日本語教師会, 2015年. [口頭発表時審査あり]

② 野田尚史「上級日本語学習者が学术论文を読むときの方法と課題」『専門日本語教育研究』16, pp. 9-14, 専門日本語教育学会, 2014年. [招待, 査読あり学会誌]

③ 桑原陽子・山口美佳「中国語系初級学習者がホテル検索サイトを読むときの困難点」『国立国語研究所論集』8, pp. 109-127, 2014年. [査読あり]

④ 野田尚史・桑原陽子・フォード丹羽順子・藤原未雪「日本語学習者の読解過程—教師が考えているのとは違う学習者の実態—」『ヨーロッパ日本語教育』18, pp. 37-38, ヨーロッパ日本語教師会, 2014年. [フォーラム発表時に招待]

⑤ 野田尚史「「オーダーメイドの文法」をめざして」『日本語学』32-7 (特集: 日本語教育文法の今), pp. 62-71, 明治書院, 2013年. [招待]

[学会発表] (計 17 件)

① 野田尚史・穴井宰子・桑原陽子・白石実・中島晶子・村田裕美子「ヨーロッパの上級日本語学習者によるウェブサイトのクチコミの解釈—文化の相違による解釈の違い—」15th EAJS International Conference [第15回ヨーロッパ日本研究協会国際会議], 2014年8月28日, リュブリャナ大学(リュブリャナ, スロベニア)。

② 野田尚史「読んで理解する過程の解明—読解コーパスの開発—」, パネルセッション「コーパスと日本語教育研究」, 第8回日本語実用言語学国際会議 (ICPLJ8), 2014年3月23日, 国立国語研究所 (東京都立川市).

③ 野田尚史・桑原陽子・フォード丹羽順子・藤原未雪「日本語学習者の読解過程—教師が考えているのとは違う学習者の実態—」(AJE フォーラム), 第17回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム, 2013年9月6日, マドリード・コンプルテンセ大学(マドリード, スペイン).

④ 野田尚史・桑原陽子・播磨涼子「文章表現の分析と学習者の読解困難点調査に基づく読解教材の作成—グルメサイトのクチコミを読む教材を例にして—」(パネルセッション), 2012年8月19日, 日本語教育国際研究大会名古屋 2012, 名古屋大学 (愛知県名古屋市).

⑤ 藤井明子・花田敦子・藤原未雪・野田尚史「上級日本語学習者の読み誤り—学習者は学術論文をどこで読み誤るか—」, 日本語教育学会 2012年度春季大会, 2012年5月27日, 拓殖大学 (東京都文京区).

[図書] (計9件)

① 野田尚史「読んで理解する過程の解明—読解コーパスの開発に向けて—」, 迫田久美子・野田尚史(編)『学習者コーパスと日本語教育研究』くろしお出版, 2015年(予定).

② 野田尚史「序論—日本語学と日本語教育—」, 曹大峰(主編)『日语教育基础理论与实践系列丛书 日语语言学与日语教育 [日本語教育研究概論叢書 日本語学と日本語教育]』, pp. 1-19, 高等教育出版社 (中国), 2014年.

③ 石黒圭「『やさしい日本語』と文章の理解」, 庵功雄・イヨンスク・森篤嗣(編)『「やさしい日本語」は何を目指すか—多文化共生社会を実現するために—』pp. 141-155, ココ出版, 2013年.

④ 二通信子・門倉正美・佐藤広子(編)「日本語力をつける文章読本—知的探検の新書30冊—」260pp., 東京大学出版会, 2012年.

⑤ 野田尚史(編)『日本語教育のためのコミュニケーション研究』229pp., くろしお出版, 2012年.

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

野田 尚史 (NODA, Hisashi)  
大学共同利用機関法人人間文化研究機構  
国立国語研究所・日本語教育研究・情報センター・教授  
研究者番号: 20144545

### (2) 研究分担者

桑原 陽子 (KUWABARA, Yoko)  
福井大学・国際交流センター・准教授  
研究者番号: 30397286

門倉 正美 (KADOKURA, Masami)  
横浜国立大学・留学生センター・教授  
研究者番号: 80127753  
[2012年度まで]

### (3) 連携研究者

村岡 貴子 (MURAOKA, Takako)  
大阪大学・国際教育交流センター・教授  
研究者番号: 30243744

生越 直樹 (OGOSHI, Naoki)  
東京大学大学院・総合文化研究科・教授  
研究者番号: 90152454

井上 優 (INOUE, Masaru)  
麗沢大学・外国語学部・教授  
研究者番号: 30213177

太田 亨 (OTA, Akira)  
金沢大学・国際機構・教授  
研究者番号: 40303317

石黒 圭 (ISHIGURO, Kei)  
大学共同利用機関法人人間文化研究機構  
国立国語研究所・日本語教育研究・情報センター・准教授  
研究者番号: 40313449  
[2013年度から]

### (4) 研究協力者

門倉 正美 (KADOKURA, Masami)  
[2013年度から]

花田 敦子 (HANADA, Atsuko)

藤原 深雪 (HUJIWARA, Miyuki)

フォード 丹羽順子 (FORD, Niwa Junko)

山口 美佳 (YAMAGUCHI, Mika)